県内への侵入が懸念される新害虫「ビワキジラミ」に注意！

1.はじめに

ビワキジラミは、2012 年 5 月徳島県で発生が確認されました。これは、国内はもとより、世界的にも該当する既知種が確認されていないビワの新害虫です。発生圃場においては、本虫の排泄物に由来する激しい「すす病」を果実に生じ、栽培を放棄する圃場もでる等ビワ栽培に甚大な被害を及ぼしています。

その後も急激に分布域を広げ 2016 年に香川県、2017 年には兵庫県（淡路島南部）で確認されています。本県はビワの出荷量全国 6 位の産地ですが、発生している徳島県、香川県と隣接しており、侵入が懸念されています。

図 1.ビワキジラミ侵入警戒リーフレット
（愛媛県病害虫防除所 HP 掲載）

2.発生生態

詳しい生態は分かっていませんが、これまでに以下のようなことが分かっています。

（外観）

成虫は、体長 2.3～3.8mm程度、セミを小さくした形状。色は淡黄褐色（秋は色が濃くなる）。

幼虫は、扁平で淡い黄褐色～黄緑色。

（生態）

被害は 4～6 月に多く、幼虫は花芽の基部、芽鱗の下などの隙間に隠れて生息。8～9 月の盛夏期には圃場でほとんど確認できなくなる。9 月下旬以降、ビワの花芽に多数の卵が観察されるようになり、翌春までビワ樹上で増殖。

（寄生植物）

現在ビワのみで確認。

（被害）

4～6 月の果実成熟期に主に幼虫が排出する甘露、白色のロウ物質が付着、果実や葉の表面にすす病が発生。

3.県外の発生地における当面の対策例

密度が高くなる前の秋～袋かけ作業前に薬剤散布を行う必要があります。ビワは毛が多いうえ、虫も隙間に密生することから薬剤が付着しにくく効果があがりにくいので、薬剤散布にあたっては、展着剤を加用し、隙間へかかるよう丁寧に行う必要があります。

表1 ビワキジラミに登録のある薬剤（平成29年9月1日現在）

薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数
スカウトフロアブル	収穫3日前まで	3回以内	2000倍
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	2000倍
オールスタースプレー	収穫前日まで	2回以内	原液

※アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、オールスタースプレーは同一成分で、全てあわせて2回まで

4.おわりに

侵入を許せば本県のビワ産地に大きな影響を与える恐れがあるため、果樹研究センターでは、2017 年度から 2019 年度にかけて農研機構　果樹茶業研究部門、徳島県、香川県、高知県、長崎県、和歌山県とともに対策技術確立事業に取り組んでいます。

疑わしい症状等ありましたら次の機関へ連絡をお願いします。

農林水産研究所
TEL　089-993-2020
FAX　089-993-2569
果樹研究センター
TEL　089-977-2100
FAX　089-977-2451

（虫害班　主任研究員　松崎幸弘）